

事業所における自己評価結果（公表）

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・共通で使用する場所が狭いため、トイレや部屋の使用時間をずらす等の工夫をしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		・配置基準に沿った職員配置をしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		・壁面等をシンプルにし、課題内容によって構造化(ついで等の環境調整や視覚支援等)を行い、生活がしやすくなるよう工夫している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・利用者が心地よく過ごせるように、毎日安全点検や清掃を行い清潔さを保つようしている。保育室内は、子ども達が活動に集中できるように、壁面装飾など刺激になるものは貼らないようしている。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		・保護者に評価表を配布し、事業所の評価を実施し、いただいたご意見をもとに話し合いをしながら、実施可能な部分は業務改善に努めている。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・自己評価表および保護者向け評価表の結果を踏まえ自己評価を行い、その結果はホームページで公開している。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	・第三者による外部評価自体は行っていないが、指定管理者としての評価を受けており、業務改善につなげている。また苦情対応に関する事項については第三者委員を設置しており、業務改善に努めている。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・計画的な職場内研修等を行い、職員の資質向上のための取り組みを行っている。また外部研修への参加も積極的に推進している。利用者サービス向上のために今後も研修の機会を確保していくことに努める。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・保護者からの聞き取りや園児の様子を客観的に見ることによって子どもをアセスメントし、その上で保護者のニーズや子どもの課題を確認している。また、その内容を職員間で共有・確認し、個々に合わせた児童発達支援計画を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・法人独自のアセスメント表を使用している。また、当センター内において、標準化された発達検査を実施している。

適切な支援の提供

⑬	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		・児童発達支援計画は、子どもの状況と課題の把握、保護者のニーズに基づき、児童発達支援ガイドラインから必要な項目を選択し、個々に合わせた具体的な支援内容を設定している。 通園児が低年齢(1, 2歳児)で、利用者の個人情報にもつながらため積極的な地域支援の内容は入れない面もある。
⑭	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		・個々の支援計画を確認し、計画に沿った支援を行っている。
⑮	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・担当が提案したプログラムを全職員で確認、立案している。
⑯	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・通園児が低年齢で通園頻度も少ないため、プログラムを繰り返すことで内容の定着を図る側面もあるが、なるべく子どもの興味、関心に沿ったもの、季節感があるプログラムになるよう工夫している。
⑰	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	○		・保育活動の基本は集団活動となっているが、生活面は個別的にアプローチし、それに沿った支援計画を作成している。また、おやつを使ったやりとりは、個別に行っている。
⑱	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・支援開始前に、全職員間で療育内容の確認を綿密に行い、クラスにおいても支援方法等の打ち合わせを行っている。
⑲	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・毎日、支援終了後に支援の振り返りの時間をとり、職員間で反省点や課題を確認し、その後の療育に活かすようにしている。また、クラス職員間のみではなく全職員で情報の共有をしている。更に、月1回部門内でカンファレンスを行い、支援方針や修正を図っている。更に、年3回は医師を交えた係全体のカンファレンスを実施している。
⑳	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・毎日、支援後には個々のお子さんの生活、遊びに関する記録をとっている。また通園日誌には日々の支援内容や改善点なども記載し、支援の改善に努めている。
㉑	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・前期、後期（半年ごと）で見直しを行っている。
㉒	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		・相談支援員とは連携を取りながら、通園児に関する情報交換を行っている。
㉓	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		・ケースに応じて関係者や関係機関と連携を図って支援をしている。
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		・医療的ケアが必要な子どもが在籍した場合、退園後に入園する施設への申し送り等、必要に応じ関係機関と連携し支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		・医療的ケアが必要な子どもが在籍した場合、主治医とはセンター内の医師が連絡を取っている。その他、必要に応じ協力医療機関等と連絡を取っている。
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・保護者の意思確認のもと、児童発達支援センター、保育所や認定こども園、幼稚園等との引継ぎを行い、支援内容や子どもの状況等の情報共有を図っている。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	・在籍児が1, 2歳児であるため、就学にあたっての移行支援は行っていない。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		・他の児童発達支援センター親子通園部門とは定期的に連絡会を行い、情報共有をしている。また発達障がい者支援センターと連携し、コンサルテーションを受けながら職員のスキルアップを図っている。
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		・当園には園庭がないため、隣接する保育園の園庭を定期的に利用させてもらった。その際に、自然発生的に保育園の園児との接点が生じることはある。今後、先方と協議しながら自由活動場面での接点等検討したいが、交流について複雑な心境を持つ保護者も複数いるうえ、親子通園であることから慎重に取り扱っていく必要がある。
	㉕	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		・当園の職員は参加をしていないが、同センター内の相談支援専門員が参加をしている。その職員からの必要な情報提供はある。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・保護者と共通理解を得るために、日々の療育場面の中や帰りの集まりでの療育の振り返りで、子どもの状況などを確認し合っている。また、定期的な個別面談の中でも子どもの発達状況や課題、支援方法を確認している。
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		・親子通園であるため、子どもの接し方や家庭で取り組む内容等について日々アドバイスをするほか、定期的な学習会も実施している。更に、ペアレントトレーニングを実施している。

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	・契約時、契約書や重要事項説明書に記載している内容を説明している。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	・現在は児童発達支援ガイドラインを示しながら説明しているわけではないが、これに基づき作成された児童発達支援計画は丁寧に説明し、保護者に同意を得ている。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	・定期的な個別面談を複数回実施をし、保護者の話を聞いたり、相談事項に関して助言をしている。また、コロナ禍において見合わせていた家庭訪問は、希望性で再開している。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	・親子通園であり、保護者同士の交流タイムを設け、連携を支援している。園の保護者会自体はないが、保護者運営の2団体に属しており、園の代表者を出すことになっている。園としても保護者同士の連携や保護者の活動をサポートしたいと考えている。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	・保護者には契約時に相談窓口の設置、責任者について説明をしている。また相談があった場合には担任や園長が、迅速かつ適切に対応するよう努めている。相談内容によっては他係との連携を図り適切な対応ができるよう努めている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	・次月の活動内容や行事予定に関してはクラスだよりを発行し説明を行っている。また、センター全体の便りも年3回発行している。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	・個人情報取扱いマニュアルを作成し、これに沿って取扱いを行っている。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	・視覚支援を行うほか、言語聴覚士とも連携しながら子どもの意思疎通のためのコミュニケーション支援を行っている。またその方法を保護者とも確認している。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	・コロナウイルス感染症の影響で見合わせていた療育ボランティア（親子分離時間の託児）を再開した。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	・感染症に関しては感染症一覧、登園基準のマニュアルを配布し、説明をしている。緊急時対応マニュアルとしての災害時避難方法を伝えている。防犯マニュアルは作成し、保護者に説明をしている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	・月1回通園での火災、地震の避難訓練を行っている。また年2回センター全体での防災訓練を行っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○	・入園時、園児の保護者に医療情報票の記入、提出を依頼している。その情報に基づき、保護者からの聞き取りとその情報の共有・確認を全職員、看護師、医師が行っている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	・主治医によるアレルギー除去食に関する診断書に基づき給食提供を行っている。

応	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	・事例集は策定していないが、年度当初にヒヤリハット研修を行っている。また、事故が発生した場合は報告書を作成し、安全委員会で報告することでセンター内で共有している。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	・虐待防止委員会の開催と、虐待防止に関する研修を行っている。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	・身体拘束に関しては、契約書に記載しており、保護者に説明を行っている。 ・対象が幼児であるため、職員のこういった行為が身体的拘束にあたるかを、保護者と確認している。